

本当に差別をなくすには

大田市立大田西中学校 3年

田中 陽菜乃（たなか ひなの）

「差別をなくそう!」

「みんなが楽しく暮らせる世の中を!」

このように呼びかけられるポスターや宣伝によって、差別は本当になくなっていくのでしょうか。私は、なくなっていないと思います。もちろん呼びかけによって、少なくなってきたとは思いますが。しかし、それは少なくなっているだけで、完全になくなっているのではないと思います。

ポスターや呼びかけだけでは、差別がゼロにはなりません。では、どうすればゼロに近づけることができるのでしょうか。

私には、昔、日本人と外国籍の両親を持つ男の子の友達がいまいた。その男の子は、とても明るく、負けず嫌いで何にでもチャレンジする活発な男の子でした。自分の意見も周りの目を気にすることなく、はっきりと伝え、行動力もある、その男の子を私はとても尊敬していました。しかし、明るく活発で人柄の良い彼

を、なかなか受け入れられない人たちもいました。

彼を受け入れない理由の一つに、彼の外見がありました。彼の肌は小麦色で、目鼻立ちがはっきりしており、唇も分厚く、私たち日本人とは、違う顔をしていました。

保育園から小学校低学年までは、みんな彼と仲が良く、一緒に遊んでいました。しかし、年齢が上がるにつれ、一人また一人と友だちは彼から離れていきました。そして、彼に対して、心無い言動を取るようになりました。私は、彼と仲が良かったので、最初は、そんな人たちのことを、無視していました。しかし、だんだん周りの人が彼から離れるようになると、私自身、周りの友達の目を気にするようになり、最後には、私も彼から離れてしまいました。そして、彼は、一人ぼっちになってしまいました。

私は、彼のことが嫌いになったわけではありません。しかし、周りの目が怖くて、彼と仲良くしていると、自分まで一人になるような気がして、離れることしかできませんでした。そして、彼にそのことを謝ることができないまま、彼は、転校してしまいました。

この出来事以外にも、世の中には、たくさんの差別が存在しています。貧富の差による差別や障がいのある人への差別など様々です。

私には、目の不自由な友だちもいました。彼女は、景色や字な

どが、ぼんやりとしか見えません。しかし、足音だけで、それが誰なのか区別することができません。私は、そのことを知って、とても驚き感心しました。彼女は、目が不自由でも、いつも自分からいろいろなこと挑戦していました。みんなと一緒に運動をしたり、料理を作ったり。自分の力で出来ることをどんどん増やそうとがんばっていました。

そんな頑張り屋の彼女ですが、友達とぶつかれることもありません。目で情報を得ることが難しい彼女にとって、言葉でのコミュニケーションは、とても大切でした。しかし、言葉がうまく伝わらなかったり、間違つて伝わったりすることもあり、ケンカになることがありました。正直、私も、うまく関われないことに悩み、腹を立てる彼女を見て、困ってしまうこともありました。

差別はいけないことだと分かっていた私が、いつの間にか、差別する側の人間になっていました。このように、差別は、自分の近くでもおきていて、決して他人事ではありません。いつ、どこで、起きてもおかしくないのです。

私は、この経験から、どうしたら差別がなくなるのか真剣に考えました。差別はポスターや呼びかけの宣伝だけではなくありませんが、それぞれの意識付けになります。意識をすることは、自分の行動を振り返るきっかけを作ります。どんな人でも、良いところはあります。どんな人にも、大切な命があります。私は、

差別によって大切な命がきえないように、お互いがお互いを受け入れ、認め合えることが大切だと思います。誰もが幸せに、笑顔で暮らせるために、差別によって、心が傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるように。誰もが、差別をしない、見逃さない、許さないことが大切です。

そのために、まず私から、次の五つのことを宣言し、実行していきたいと思います。

一、たくさんの人と出会い、たくさんの良いところを見つけます。

二、互いの考えや立場を理解し、尊重します。

三、外国の方々との交流を深め、国際理解に努めます。

四、見えない壁を作らず、誰にでも公平に接します。

五、人を愛し、愛される人間になります。

私は、この五つの宣言を胸に刻み、誰もが笑顔で過ごせる社会をめざして、頑張っていきたいです。